

News Letter

2011年9月 No.4

日頃は慶應義塾維持会の活動にご支援を賜りまして、心より御礼申し上げます。

慶應義塾維持会は、慶應義塾の維持運営のために寄付を行う会員組織として、明治34年の福澤諭吉先生逝去の折に設立された伝統ある組織です。現在、維持会員数は約44,400名を数え、会員皆様のご厚志により維持会基金は約29億円に上っております。2007年度にはこの基金の運用益を充てることで「慶應義塾維持会奨学金」を新設し義塾の奨学制度を一層充実させました。その他、義塾の教育・研究の振興、施設の拡充などに幅広く寄与しています。

慶應義塾のさらなる発展のために、維持会にご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。また維持会を通じて義塾との絆を一層深めていただければ幸いです。

2010年度の維持会事業をご報告いたします。

◆奨学支援事業（維持会奨学金）

近年、経済的理由により学業の継続が困難になる学生が全国で増えており、慶應義塾でも日本学生支援機構奨学金の受給を含め、のべ約1万人の塾生が奨学金を受けています。こうした現状を踏まえて、義塾の奨学制度の一層の充実と将来良識ある社会人として活躍できる人材を育成することを目的に、2007年度に維持会事業の中核として「慶應義塾維持会奨学金」を新設しました。この奨学金は、経済的に修学が困難な塾生に、勉学に専念できる環境を整え、また全国の優秀な学生に義塾で学んでもらうために地方出身者を優先採用としています。

2010年度は35都道府県・54名の塾生に総額3,000万円を支給いたしました。



◆キャンパス施設整備への支援

三田キャンパスに、犯罪の防止などに努めるため防犯監視用カメラを増設し、構内の安全性を高めました。

設置したカメラには維持会からの支援であることを示すシールを貼付しています。

維持会より21,403,116円を助成いたしました。



2010年度維持会決算

(単位：円)

収入の部		
寄付金		185,634,495
維持会基金運用収入		56,403,116
(1) 収入の部合計		242,037,611
支出の部		
維持会事業費	奨学支援事業	30,000,000
	その他の支援事業	21,403,116
管理経費	会員用三田評論経費	15,601,486
	事務経費 (維持会動議にともなう趣意書等制作費、DM発送郵便料等)	16,719,758
(2) 支出の部合計		83,724,360
収支差額(1)-(2) ※全額を維持会基金に組み入れ		158,313,251
(3) 年度末維持会基金残高		2,978,469,097

収入の部

- 新規入会 840 件、継続 6,893 件、計 7,733 件の寄付金（維持会員からの醸金）と維持会基金運用収入により、242,037,611 円となりました。

支出の部

- ①奨学支援事業 30,000,000 円
「慶應義塾維持会奨学金」に充当しました。
- ②その他の支援事業 21,403,116 円
三田キャンパスの施設整備(防犯監視用カメラ)への財政支援をしました。
- ③管理経費 32,321,244 円

慶應義塾維持会基金残高

- 収支差額 158,313,251 円を維持会基金に組入れた結果、2,978,469,097 円となりました。昨今の経済状況において運用益が減少する場合でも、維持会事業が遂行できるよう財務基盤を強化します。

2011年度に計画されている維持会事業についてお知らせいたします。

◆奨学支援事業（維持会奨学金）(41,000,000円)（詳細は中面をご覧ください）

◆東日本大震災により被災した塾生の授業料減免の資金（16,569,381円）

慶應義塾では大規模自然災害による被災で経済的に就学が困難になった塾生に対し授業料の減免を行っており、この事業に対する資金を維持会から助成します。

◆アントレプレナー支援資金（2,000,000円）

義塾の学術的研究活動によって生み出された研究成果の社会的活用の促進を目的に、義塾の知的財産権の実用化に際して設立されるベンチャー企業に対して支援しています。

慶應義塾維持会奨学金

年々申請者が増えていることもあり、運用5年目をむかえた2011年度は、維持会奨学金の一層の充実のため支給額を3,000万円から4,100万円に増額し、支給者を54名から70名に増やしました。

文・経・法・商・総合政策・環境情報学部から50名・各50万円
医・理工・看護医療・薬学部 から20名・各80万円

(参考：2010年度) 文・経・法・商・総合政策・環境情報・看護医療学部から44名・各50万円
医・理工・薬学部 から10名・各80万円

*「慶應義塾維持会奨学金」を含め義塾独自の奨学金は給付型で返済の必要はありません。

2011年度は220名を超える応募があり、厳正な審査を経て、35都道府県・70名の塾生に総額4,100万円を支給することが決定しました。これまでに46都道府県・283名が採用され勉学・課外活動に充実した学生生活を送っています。

2011年度維持会奨学生から維持会員の皆様への感謝のメッセージをご紹介します。

(2011年度採用者 70名のうち、6名のメッセージ(一部抜粋)をご紹介します。)

この度は平成23年度慶應義塾維持会奨学金の奨学生に採用していただき、誠にありがとうございます。私だけでなく、遠く鹿児島県におります両親ともども慶應義塾維持会の皆様のご厚意に心から感謝申し上げます。

今年度より返還の負担に対する不安から日本学生支援機構の奨学金を辞退し両親からの仕送りを受けながら私自身もアルバイトをして生活をしており、以前より両親の負担は大きくなっています。したがって、給付していただく奨学金はそのような両親の負担が軽減されるように全額学費に充てさせていただきます。

慶應義塾大学での生活も早くも3年目を迎え、現在は今年から始まる就職活動を視野に入れて今後の自分の将来像を描きながら、専攻の勉強や学生団体での活動、アルバイトと充実した日々を送っています。倫理学専攻のゼミでは自分の研究に繋がる新たな発見がある一方で勉強不足を痛感することもあり、いい刺激を受けながら日々勉学に励んでいます。また、所属している学生団体では先輩方の活動や全体での交流から責任感や貢献する喜びなど今後の社会生活で大切なものを人間的な成長という意味での自身の変化とともに感じています。

維持会奨学生として採用していただくのは二度目となり、これまで以上に身の引き締まる重責を感じると同時に、奨学生の自覚をもって一層勉学に精進しこのような貴重なご支援に恩返しをしていく所存です。そして、社会に出た際には私も塾員の一員として福澤先生の「社中協力」の精神に則り後輩を支えたいと考えております。

本来ならば直接お伺いして御礼を申し上げるべきところですが、書面にて失礼させて戴きます。

末筆ではございますが、重ねて御礼申し上げますとともに皆様のご健勝と御多幸を心よりお祈り申し上げます。

●文学部3年(鹿児島県)

この度は、慶應義塾維持会奨学金に採用していただきまして、誠にありがとうございます。維持会の皆様、私たち後輩のために寄付していただいたものだということを自覚して、大切にしていきたいと思っています。両親には高額な学費を払ってもらい、一人暮らしもさせてもらっていることで、感謝と同時に申し訳ない思いがありました。少しでも負担を減らしたいという思いからアルバイトをしていますが、学業との両立のため、時間には限りがあり、自分が暮らしていくお金を稼ぐのが精いっぱいでした。この奨学金は、私や両親の大きな支えになります。授業料や生活費などに使い、両親に少しでも楽してもらえたら、と思います。

今年度で私は3年になり、看護の専門的な授業も増えてきました。また、実習も何度か経験し、看護の実践の場を意識することも多くなりました。数年前は遠くに見えていた看護師という夢も、だんだん現実味を帯びてきたことを、改めて感じる毎日です。大学生活も半分が終わり、これからより一層勉学に励み、自分自身の看護観を深めていきたいと思っています。また、患者の思いに寄り添い、身体的な面だけでなく精神的な面でもケアができるような看護師になれるよう、授業や実習での経験を身に付けていきたいと思っています。ここで、慶應義塾で看護を学ぶ中で、先輩方のお話を聞く機会が多くあります。それは、看護だけでなく様々な分野で活躍されている方も多く、このような機会に恵まれているのは、慶應義塾の先輩方が後輩を思っていられるからなのだと感じます。先輩方に感謝し、私も慶應義塾のために何かしていけたらよいと思います。そして、先輩方から得た知識から、幅広い視野を持った看護師になりたいと思います。

この度は本当にありがとうございました。

●看護医療学部3年(静岡県)

維持会奨学生には、維持会へのメッセージを必須としており、2011年7月20日に開催された維持会常任委員会懇話会では、感謝の言葉と今後の抱負などを語っていただきました。

◎維持会Webサイト(<http://www.kikin.keio.ac.jp/ijikai/>)では、奨学生全員のメッセージを掲載しておりますので、ぜひご覧ください。



この度は、慶應義塾維持会奨学金に採用して頂き、誠にありがとうございました。実家の家族は、私の学費の納入に窮し、厳しい生活を送っていた矢先に、更に追い打ちをかけるように、3月11日の東日本大震災により甚大な被害を受けました。そのため、今回の採用につきましては、家族ともども大変喜び、感謝しております。

奨学金のお陰で、学費未納による退学を免れ、これまで通り継続して慶應義塾で学ぶことができるということに、心から感謝し、更に学業に励んでいきたい次第であります。特に、ゼミで扱っている地域研究に力を入れ、対象地域の研究を通して、その地域をとりまく周辺諸国や、世界情勢について深く学んでいきたいと考えております。

これからも、常に「塾生である」という誇りと帰属意識を持ち、少しでもこの慶應義塾の発展に貢献できるように、残された塾生生活を悔いなく有意義なものにしていきたいと思っております。

●法学部3年(宮城県)

私は自分の身の回りに癌患者が多く、将来は癌治療に尽力したいと思い医学部に入学致しました。現在までに基礎と臨床の講義を受け、少しずつ医師になるための土台を固める一方、学生の内から癌研究に携わりたいという意志で研究室の方にもお世話になり、日々研究の面白さや難しさに直面しながらも、自分にとって目標とする医師像を模索している段階にあります。

今、本塾において医学を学べることも、また素晴らしい友人や先生方に恵まれていることも、奨学生に採用していただいた上で成立していることであり、慶應義塾維持会の皆様には大変感謝致しております。慶應義塾維持会奨学生としての自覚を持ち、そしてこの御恩は、いずれ自分が医学分野で義塾全体に対し貢献することで返返しできればと、切に望んでおります。

●医学部4年(神奈川県)

今回の東日本大震災の影響で父の職場も更なる規模縮小もしかねない状況であるので、経済的にいつ大学に通えなくなるか日々不安で仕方ない状況でした。そんな中、今回の採用の報せを受け、私の両親も安心し、大変感謝しておりました。

奨学金については両親と相談のもと、生活費の補てんと今年度の学費に充てるつもりでございます。また、理工学に関するさらなる専門的な知識を身に付けるために、書籍をたくさん購入したく考えております。

こうして現在、安心して学問に専念できているのも、ひとえに慶應義塾維持会の皆様のおかげであり、経済的な支えが精神的な支えともなっていることを日々実感しています。これからもより一層勉学に励んでゆく所存でございますので、どうか温かくお見守りくださいますようお願い申し上げます。

●理工学部2年(広島県)

奨学金は、授業料に使わせていただきたいと思っております。また、フランスへの海外語学研修の費用に、ありがたく充てさせていただきたいと思っております。入学してからのこの一年間で私は、素晴らしい教員の方々に導かれ、心の通う友人に出会うことができました。そして、様々な知識を得て自分の視野を広げることができ、外から日本の社会を見たいと思うようになりました。また、私は慶應義塾体育會に所属しており、そこで頼るべき先輩方、お互いを尊重し合える仲間と日々切磋琢磨、活動しております。また、体育會という組織の一員になったことで、組織運営に関しても実践的に学んでおります。

この度、維持会奨学金に採用していただいたおかげで、文武両道に大学生活を送る、後押しをしていただけたと思っております。このことを常に感謝をして、維持会奨学生として誇れる、日々充実した大学生活を送っていきます。

●環境情報学部2年(京都府)





慶應義塾大学病院は「人間ドック」を開始いたします

—2012年8月スタート予定—

21世紀の医学の柱のひとつに予防医学が挙げられ、慶應義塾では、これまでも研究に取り組んでまいりました。それをさらに強力に推し進めるとともに、実践の場として医学部と病院が一体となり皆様の健康を守るべく「人間ドック」を開始することにいたしました。

【当院「人間ドック」の大きな特長】

- 三大生活習慣病(がん、心疾患、脳血管疾患)の早期発見、早期治療をめざす
- 加齢にともなう様々な疾患(骨粗鬆症、認知症など)に関しては症状が出る前に発見して対処
- 全診療科にわたる高い診療レベルを生かした良質かつ包括的な健診を提供
- 診断機器は最新鋭の機種を導入
- 診断や検査は各科の専門医師や専門技師が担当
- 常に最先端の技術をいち早く導入
- 健診後は、個々の状況に配慮して対処

*現段階でのより詳細な情報は当院WEBサイトでご覧になれます



*2012年春竣工予定3号館(南棟)の3階に「予防医療センター(仮称)」を開設。快適な環境で健診を受けていただく予定です(イメージ図)

【基本コース(予定)】

- 標準ドック(4~5時間/上部消化管は内視鏡かX線を選択)
 - スーパーがん検診ドック(2日/PET-CT検査含む)
 - 消化器ドック(1日/上・下部内視鏡、腹部MRIなど) など
- 標準ドックとあわせて行う専門コースとして、「脳ドック」、「心臓ドック」、「レディースドック」、「アンチエイジングドック」などを、また、標準ドックに追加するオプションセットとして、「メタボリックシンドロームセット」、「脳血管セット」、「追加腫瘍マーカーセット」、「運動器セット」、「婦人科画像セット」などを予定しております。

*詳しいプログラム及び料金は11月頃にご案内する予定です。

詳しい内容を知りたい方には、簡単なお登録で資料送付

2011年11月頃には「人間ドック」の詳しいコース等を記載したパンフレットを作成予定です。ご興味のある方は慶應義塾大学病院WEBサイトかお電話で、お登録ください。後日、案内をお送りさせていただきます。

●WEBサイトからのお登録

慶應義塾大学病院のトップページの「人間ドック」→人間ドック開始のお知らせのページの「資料請求・お問い合わせ」のボタンをクリックください。お登録のフォーマットが出てきます。(慶應義塾大学病院 URL: <http://www.hosp.keio.ac.jp/>)

●お電話でのお登録

TEL: 03-6910-3533 (受付時間/月曜日~金曜日・9:00~16:30)

【お問い合わせ先】

慶應義塾大学病院 予防医療センター(仮称) 開設準備室

〒160-8582 東京都新宿区信濃町35 TEL: 03-6910-3533 (受付時間/月曜日~金曜日・9:00~16:30)

FAX: 03-5363-3454 / E-mail: preventive_med@info.keio.ac.jp / URL: <http://www.hosp.keio.ac.jp/>